

コロンビア月例報告（2月分）

外交・内政状況

2016年3月

在コロンビア日本国大使館

E-mail : info@ba.mofa.go.jp

I 概要

【内政】

- 17日 「ポスト・コンフリクト期における平和安定化・構築基金」の業務開始
- 18日 FARCのグアヒラ県訪問騒動
- 23日 和平に関する政策連合が発足
- 29日 ウリベ前大統領実弟の逮捕

【外交】

- 2～5日 サントス大統領の米国公式訪問
- 9日 フィル・ホーガン欧州委員会農業・村落開発担当委員長の当国訪問
- 9日 アブダラー・アラブ首長国連邦外相の当国訪問
- 21～22日 ブレンデ・ノルウェー外相の当国訪問
- 26日～29日 オルギン外相の欧州歴訪（ドイツ及びオーストリア）
- 27日 ベネズエラによる国境閉鎖の一時解除

II 本文

【内政】

1 「ポスト・コンフリクト期における平和安定化・構築基金」の開始

17日、ポスト・コンフリクト期における平和安定化・構築基金が始動した。国連による同基金は、国連から2,500万米ドル、ドナー国グループの持ち回り議長国のスウェーデンから600万米ドルが当初拠出され、計3,100万米ドルとなり、業務を開始した。同基金の目的は、和平最終合意署名を待たず、現時点からFARCとの部分合意事項を特に地方部で実施する取組に融資することとされる。基金の用途は、紛争被害者の集団補償のほか、社会・経済インフラ整備、雇用の創設、地方部におけるジェンダーに関する暴力撲滅のための警察の体制強化等とされている。

2 FARCのグアヒラ県訪問騒動

18日、イバン・マルケスFARC側和平交渉団長をはじめとするFARC構成員が、当国グアヒラ県を訪問した。同訪問の目的は和平交渉に関する広報であったが、FARC側が武装したゲリラ兵を同行させていたこと、及び（和平後の政党化をにらんだ）政治活動をしたことから、世論の批判が高まり、政府はこの種の活動の中断を命じた。政府は昨年11月からこの種の活動を許可している。

3 和平に関する政策連合

23日、「和平のための統一会派」の結成が発表された。同会派には、連立与党（国民統一党、自由党、急進改革党）に加え、ウリベ前大統領派の最大野党「民主中道運動」を除き、「保守党」、「緑の同盟」、「PDA党」他多数の小政党が参加した。なお、同会派は、和平最終合意署名後の国民投票において賛成票が多数となるよう協力するほか、和平合意事項の立法プロセスにおいても協力することを目的としている。

4 ウリベ前大統領実弟の逮捕

29日、ウリベ前大統領の実弟であるサンティアゴ・ウリベ氏が共同犯罪行為及び重大殺人の容疑で逮捕された。サンティアゴ・ウリベ氏は、90年代にパラミリタリー（右派ゲリラ）「Los Doce Apostoles（12人の使徒）」への資金提供をした容疑で告訴された。

【外交】

1 サントス大統領の米国公式訪問

2～5日、サントス大統領は、「プラン・コロンビア」15周年を記念するためのオバマ米国大統領による招待を受け、米国を公式訪問し、以下の日程をこなした。また、オルギン外相も訪米に同行した。

オバマ大統領は、戦略的二国間協力である「プラン・コロンビア」の新フェーズを「ピース・コロンビア」（スペイン語で「パス・コロンビア」）との名称で発表した。

(1) 3日

マスコミ関係及びシンクタンク関係の会合
企業家及び議会関係者との昼食
在米国コロンビア大使館の新事務所開所式出席

(2) 4日

バイデン米国副大統領との会談
アルマグロOAS事務局長との会談
オバマ米国大統領との首脳会談
プラン・コロンビア15周年記念レセプション出席

(3) 5日

ケリー米国国務長官との会談
IDB総裁との会談
IDB主催フォーラム出席
IMF専務理事との会談

2 フィル・ホーガン欧州委員会農業・村落開発担当委員長の当国訪問

9日、フィル・ホーガン欧州委員会農業・村落開発担当委員長が当国を訪問し、サントス大統領と会談した。フィル・ホーガン欧州委員会農業・村落開発担当委員長は、

和平プロセス及びポスト・コンフリクトに対する支援を改めて表明するとともに、和平合意が署名された際には、新たな農業関連の協力プログラムを実施することを発表した。

3 アブダッラー・アラブ首長国連邦外相の当国訪問

9日、アブダッラー・アラブ首長国連邦外相が当国を訪問し、サントス大統領及びオルギン外相と会談した。同外相の訪問中、租税情報の交換、文化・教育・スポーツ協力、環境保護、気候変動、エネルギー効率及び観光等の分野に関する8つの協力覚書が署名された。

4 ブレンデ・ノルウェー外相の当国訪問

21～22日、ブレンデ・ノルウェー外相が当国を訪問した。21日、同外相は、サントス大統領と会談し、グアヒラ県においてFARCが武装したまま和平に関する広報活動（注：この活動自体は政府が許可済）をし、右を批判する世論が高まった件について意見交換した。

5 オルギン外相の欧州歴訪

26～29日、オルギン外相はドイツ及びオーストリアを歴訪した。

(1) ドイツ

26日、オルギン外相はシュタインマイヤー外相と会談し、ポスト・コンフリクト、地雷除去等に関する協力について協議した。

(2) オーストリア

29日、オルギン外相はリンハルト外務省事務次官と会談し、ポスト・コンフリクトにおける協力について協議した。オルギン外相は、在コロンビア・オーストリア大使館の再開について謝意を表するとともに、フィッシャー・オーストリア大統領のコロンビア訪問の重要性を強調した。

6 ベネズエラによる国境閉鎖の一時解除

27日、ベネズエラは閉鎖中のコロンビアとの国境を5時間の間開き、双方の車両が登録元の国に戻る場合にのみ通行を認めた。これに対してコロンビア側入国管理当局は28日、以後国境が開かれた際には、これまでは要求していなかったコロンビアにおける滞在許可を証明する書類の提示を要求するとともに、不法滞在しているベネズエラ人を取り締まることを決定した。この措置は、治安維持のためとされている。

(了)